

人権に関する様々な取組

アンコンシャス・バイアス(性別による無意識の思い込み)の見直し

～「男女平等教育推進のために」令和4年7月 東京都教育庁指導部より～

無意識のうちにとらわれている思い込みや偏ったものの見方を教職員全体で見直し、改善を図りました。アンコンシャス・バイアスは環境や経験を通してつくられるもので、誰にでもあるものなので、まずはこれらに気付くことから始めました。

【呼称の見直し】男子→「くん」、女子→「さん」⇒「さん」へ統一

【男女の色分けを見直し】

座席表示:男子→青色

女子→赤色 ⇒ 黒色へ統一



【整列時の隊形の見直し】男女別背の順⇒男女混合名簿順

【教職員の言動の見直し】男女に限定した言動をしない。

【委員会男女定員枠の撤廃】男女1名ずつ⇒男女問わず2名

生徒、保護者・地域、教職員対象

「人権に関する意識調査」実施(肯定的評価)

生徒	あなたは学校で自分らしく生きていますか。	92%
	・学校では男女平等が実現できていると思いますか。	74%
保護者	学校教育において男女平等が実現できていると	
地域	思いますか。	88%
	・お子様に対し、「男子らしい」「女子らしい」など男女に限定した言葉かけをしていませんか。	55%(していない)
教職員	・子どものプライバシーに配慮ができていますか。	90%
	・生徒を「さん」付けて呼んでいますか。	85%
	・生徒に対し、「男子らしい」「女子らしい」など男女に限定した言葉かけをしていませんか。	95%(していない)

「人権に関する資料や書籍」を

玄関ホールや図書室、保健室、廊下に展示・掲示

「人権」を生徒が自分事として捉えられるよう、生徒がいつでも手に取って、自由に読めるようにしました。生徒は、休み時間や放課後などに手に取り、仲間と話題にしていました。



人権サポーターズが“人権について”考える!!

人権サポーターは生徒の代表者12名で構成され、定期的にサポーターズ会議を実施。生徒全員にとって「過ごしやすい学校」にしていけるために“人権について”互いの考えを共有しました。掲示板「人権ひろば」にメッセージを配信し、「人権ポスト」(日常の困りごとをいつでも誰もが投函できるポスト)を設置しました。



レインボーフラッグ、レインボーカラーを校内に掲示

性的マイノリティの尊厳と社会運動の象徴であるレインボーフラッグやレインボーカラーのものを掲示することで性の多様性を認め合い、「誰もが自分らしく生きられる社会」の実現に向けた取組を行いました。



全国中学生人権作文コンテストに全校生徒が応募

～法務省と全国人権擁護委員連合会管轄～
日常の家庭生活や学校生活等の中で得た体験に基づく作文を書くことを通して、人権尊重の大切さや基本的人権についての理解を深め、豊かな人権感覚を身に付けるために取り組みました。



地域協働運営協議会(地域)との連携

教職員向けの「人権教育推進プロジェクト通信」を配布し、人権尊重教育推進校としての取組について定期的に報告、意見交換をしました。また、「人権に関する意識調査」への協力を依頼しました。



12月1日世界エイズデーの保健委員会の取組

エイズについての発表やレッドリボン運動やメッセージの記入掲示を行いました。また、人権週間期間中に例年のエイズデーの取組に加え、「LGBTQ+」について発表し、メッセージカードを貼り合わせ、レインボーフラッグを作成しました。



日本語の分からない子どもに「日本語サポート指導」

新宿区教育委員会は、区立幼・小・中学校へ編入してきた日本語の分からない子どもに、母語を使って日本語を指導する日本語サポート指導を実施している。短期間に集中して母語を話す指導員を配置し、日本語及び日本での学校生活に関する指導を行っている。

教職員との共通理解のための通信発行

定期的に人権教育推進プロジェクト通信を発行し、教職員の共通理解に努めました。内容は研究の進捗状況や取組内容の周知、校内研修のまとめなど、その都度、必要な情報発信を行いました。2年間の研究で35号発行しました。



学校朝礼で人権尊重教育推進校としての取組を周知

人権尊重教育推進校としての取組について生徒に説明。教員が呼称を「さん」付けに統一していることや男女に限定した言動をしないようにしていることなどを伝え、生徒全員の人権を守るための取組を紹介しました。

